

[平成18年度普及に移した技術]

[普及に移す技術名] 本県で有利なサクランボ品種「正光錦」、「香夏錦」

[要約] オウトウ(サクランボ)栽培では品種の選定が重要であり、本県では早生品種の「正光錦」、および「香夏錦」が適する。これらの品種は本県において収量性に優れるとともに、雨よけ栽培で主要な産地より早い6月上旬頃に収穫できる。

[キーワード] オウトウ、品種特性、北部温帯果樹、雨よけ栽培

[担当] 福井農試・園芸・バイテク部・果樹研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100 電子メール k-sakagawa-oi@pref.fukui.lg.jp

[分類] 参考

[背景・ねらい]

オウトウは果物が少ない初夏に収穫でき、直売所などで需要が望める果樹であるが、県内産のものは少ない。一方、山形県など主要な産地は冷涼な気候にあり、本県のような高温多湿の気象条件下において結実が安定し、高品質果実の生産が可能な適正品種を選定する。

[技術の内容・特徴]

1. 本県では、「正光錦」、「香夏錦」が他の品種と比較して収量に優れ、8年生樹では1樹あたり10kg以上の収量となる(表1)。
2. 両品種とも4月中旬に開花し、山形県など主要な産地より早い6月上旬頃(収穫盛期は「正光錦」で6月4日、「香夏錦」で6月5日)に収穫できる(図1)。
3. 果実品質では、糖度は「正光錦」20.7度、「香夏錦」21.3度と高く、両品種とも果肉は柔らかく酸味が少ない。平均果重は「正光錦」6.8g、「香夏錦」5.9gで、全国的な主要品種である「佐藤錦」(6.5g)とほぼ同程度の大きさとなる(表1)。
4. 以上のことから、本県では「正光錦」、「香夏錦」の栽培適応性が高く、有利な品種である。次いで適応性の高い品種は、果実品質のよい「佐藤錦」や「紅秀峰」、整枝が容易な「紅てまり」である(表1)。

[技術の活用面・留意点]

1. オウトウは収穫開始まで5年程の育成期間を要するが、幼木期の樹勢が強くなりやすく花芽の着生も少ないため、過度の施肥、灌水は避ける。
2. オウトウは自家不和合性であるため受粉樹の混植が不可欠であるが、「正光錦」、「香夏錦」は相互に親和性がなく収穫期も重なるため、表2や図1を参考に受粉樹を選定する。なお、「佐藤錦」を受粉樹とする場合、年によって開花時期がずれることがある。
3. 裂果防止のため、開花直後から収穫期にかけて雨よけ栽培を行う。また、収穫期にはネット被覆等の防鳥対策が必要である。
4. 病害虫対策では、灰星病、コスカシバを中心とした防除を行う。

[具体的データ]

表1 各品種の収量と果実品質

品種名	植栽年度	1樹あたり収量(kg)			平均果重 ² (g)	糖度 ² (brix%)	本県での 適応性
		6年生樹	7年生樹	8年生樹			
正光錦	1997	0.46	8.77	12.29	6.8	20.7	
香夏錦	1997	0.23	4.29	10.94	5.9	21.3	
佐藤錦	1997	0.18	1.79	3.46	6.5	20.6	
ジャイアントキング	1997	0.00	0.11	0.81	9.8	18.3	×
月山錦	1997	0.02	0.15	0.05	10.5	21.1	×
ナポレオン	1997	0.01	1.28	枯死	6.5	20.6	
紅さやか	1998	1.97	3.42		4.7	18.4	
紅秀峰	1998	3.06	2.52		8.0	21.6	
紅てまり	1999	0.66			7.5	19.4	

²: 2003年～2005年の平均。「紅てまり」は2005年の値。
植栽距離3m×7m、変則主幹形

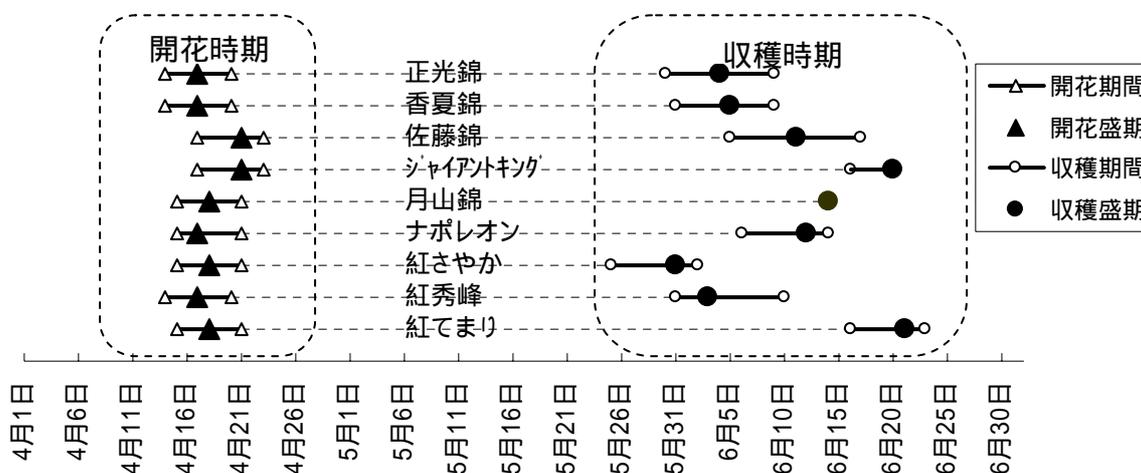


図1 各品種の開花時期、収穫時期

2003年から2005年の平均値(紅てまりの収穫時期は2005年のみの結果)

表2 (参考) サクラノボ主要品種の交雑和合性とS遺伝子型

(「アウトウの自家不和合性の分類と受粉樹としての利用」(山形園試 平成14年果樹研究成果情報)より)

	紅秀峰 (S4S6)	佐藤錦 (S3S6)	南陽 (S3S6)	ナポレオン (S3S4)	紅さやか (S1S6)	紅てまり (S1S6)	高砂 (S1S6)	大将錦 (S1S4)	北光 (S1S6)	香夏錦 (S4S6)	正光錦 (S4S6)
紅秀峰 (S4S6)	×		()							×	×
佐藤錦 (S3S6)		×	×			()			()		()
南陽 (S3S6)	()	×	-					()			
ナポレオン (S3S4)				×							
紅さやか (S1S6)			()		×	×	()	-	×		
紅てまり (S1S6)					(×)	×		-	(×)		
高砂 (S1S6)			()		(×)	×	×	()	×		

品種名と併記の()はS遺伝子型を示す。

: 和合性(10%以上)、 : 要検討(2~10%未満)、×: 不和合性(2%未満)

但し()、()、(×)は単年度の結果等に基づく推定

[その他]

研究課題名 : 高温多湿条件下におけるリンゴなど北部温帯果樹の安定生産技術

研究期間 : 1999年度～

研究担当者 : 坂川和也、長澤清孝、谷口弘行